

国立台湾大学日本語学科大学院学位取得の手引き

2024.2.16一百一十二年度第二学期第一回学科会議通過
(修正歴は文末に記載)

一、履修の流れ

- 1・指導教授がすでに決まっている場合は、指導教授と相談の上授業履修すること。
- 2・まだ指導教授が決まっていない場合は、学科主任または担当教授と相談の上授業履修すること。

二、授業と単位数

1・2023年度(含む)以前の入学生は、本学科の卒業単位を32単位(修士論文は含まない);2024年度(含む)以降の入学生は、本学科の卒業単位を28単位(卒業論文は含まない)とする。日本語文学(日本文化を含む)および日本言語学の二分野から1つを主専攻とし、もう一つを副専攻とする。主専攻は本学科授業16単位、副専攻は本学科授業8単位を履修しなければならない。主専攻が日本文学の者は、日本文学から12単位;主専攻が日本文化の者は、日本文化から12単位履修しなければならない。

2・学期につき履修する授業は、13単位を超えてはならない。

3・以下を本学科の先修科目とし、先修科目は卒業単位には含まれない。

(1)日本文学史:履修済みの者は履修免除申請することができる;未履修の者は、「日本古典文学選読」を補修しなければならない。

(2)日本言語学概論:履修済みの者は履修免除申請することができる;未履修の者は、「日本言語学概論」を補修しなければならない。

各学期第一学期の始業日の二週間前から、始業日から第一週の計三週の期間内(本校行事予定による)に関連証明書(原本)をもって、履修免除申請を行うこと。期間外の提出は受理しない。

4・2020年度(含む)以前の入学生は、卒業単位として、全学年分の科目を履修しなければならない。2020年度以降に入学の学生については、卒業単位として、学年の科目をセメスターの順に履修する必要があり、学年の科目を前期のみ履修する場合は、卒業単位に含めることができる。

5・外部学科の選択必修科目を履修する必要がある場合は、指導教授及び学科長の同意を得る必要があり、同意を得た場合にのみ卒業単位に含めることができる。

6・下記条件に当てはまる場合は、「高級英語」または外国語学科の一つのリーディングを想とした英語科目の履修を免除することができる:

(1)全民英語能力検定で中高級初試験を通過している者

(2)オンラインTOEFL iBTにて72点(含む)以上

(3)国際英語試験(IELTS Academic)6.0級(含む)以上

(4)外国語能力試験(FLPT)の英語試験筆記試験の各成績が70点(含む)以上

(5)外国語能力試験(FLPT)の英語試験リスニング試験の合計点が217点(含む)

以上、スピーキングS-2+(含む)以上、ライティングB級(含む)以上

(6) 英国ケンブリッジ大学中等英語認定 (FCEまたはFCE for Schools) B2級 (含む) 以上

(7) その他進級英語課程の小クラスの認可、並びに共同教育センターの英語能力試験を通過している

(8) 教育部の参考名簿の英語系国家の大学 (含む) 以上の学位を取得している

(9) 国外の英語による授業の高校卒業証明

(10) 大学一年の大学入試「指定科目試験」にて英語の成績が88点 (含む) 以上

(11) 「学科能力試験」の成績が15級に達している、および「大学入試センターの高校英語リスニング試験」にてA級を取得している

(12) TOEIC合計785点 (含む) 以上

毎学期授業開始日の二週間前から、始業後第一週の計三週間の期間内 (本校行事予定による) に関連証明書 (原本) を提出し、履修免除申請を行わなければならない。期限を過ぎた者に関しては受理しない。

7・入学前に選択必修の本学科大学院M字コースの成績がB- (70点) 以上および卒業単位に含まれない者は、教務課のシステムを通して免除申請を行うことができ、申請は6単位までとします。入学後第二学期までに申請すること。入学時に10年以上経過しているコースに関しては免除できないものとする。

三、論文提出に関する必須資格

1・大学院生の第一学年第一学期に、自らまたは学科主任によって論文指導教授を決定する。指導教授の同意を得たのち、指導教授同意書を第二学年第一学期開始二週間以内に学科オフィスまで提出すること。特別な理由があり、指導教授を変更する場合は、学期終了前に所長と相談する必要がある、相談ののち変更手続きを行う。履修選択時には指導教授のサインをもらう必要がある、指導教授が決まっていない場合は、学科主任または担当教授のサインをもらうこと。

2・大学院生は主専攻領域の論文指導資格を持つ本学科専任教授から論文指導教授を選択すること；主専攻領域で論文指導資格を持つ本学科非所属の専任教授を希望する場合は、学科主任の同意を得たのち外部学科または他校の教師に論文指導教授を担ってもらう。

3・本学科論文指導資格を持つ本学科専任教授の人数が主専攻学生数に対して不足する場合、各教師の論文指導生を一名とする原則を、二名以上の研究生を指導できるとする、また専門分野の近い教師が論文指導経験のない状況である場合は、学科主任の補助のもと前述二原則に当てはまるものとする。

4・第二学年第二学期、3月10日以前に指導教授に論文テーマと論文要旨を指導教授に提出すること。内容には研究目的および動機、研究範囲、先行研究まとめ、方法論および参考文献を含むこと。5月10日までに指導教授まで論文計画を提出すること。

5・卒業学期4月末または11月末までに、指導教授に論文を提出し、提案審査を行うこと。

6・学校の規定により、時間、方法、歴年成績表、論文初稿および学位審査申請書を定める。学位審査を申請し、学期終了までに学位審査を行うこと。何らかの原因により論文提出をできない場合は、規定期間内に学位審査申請を取り消すこと。

7・大学院課程の基準による単位を修了してはじめて卒業が可能となる。学位試験の成績が不合格であった場合は、就学年数を延長することができ（最長で4年を超えてはならず、現職の大学院生で規定の就学年数内に学位論文を完成できない者は、最高二年まで就学期間を延長することができる）、次学期または次学年に再試験を受けなければならない、再試験は一度までとする。

8・論文提出までに一回公開発表をしなければならない。

9・院生は二年課程を修了してはじめて提案審査を行うことができる。

四、退校

1・院生は本学科「研究パスポート」が規定する研究活動を満たし、学科オフィスに提出しなければならない。

2・院生は学位論文の清本を一冊、学科オフィスまで提出しなければならない。

3・院生は学部施設の鍵、学科所有物（例：学科図書室の貸出本で未返却のもの）を学科オフィスまで返却しなければならない。また、本学科「卒業生アンケート調査」を記入し、学科オフィスまで提出しなければならない。

4・「学位論文学術倫理オリジナル性声明書」を指導教授のサインを貰ったのち、学科担当者に提出すること。本学科論文オリジナル性の合格基準は24%以内（含む）で、これは本論文が他の論文を適切な割合で引用しており、参考文献の出典が正しく表示されていることを意味する。

五、本規則は学科事務会議を通過ののち施行され、修正時も同様である。

（修正履歴）

92.5.12九十二年第二学期第三回学科事務会議通過
95.9.20九十五年第一学期第一回学科事務会議通過
97.9.24九十七年第一学期第二回学科事務会議通過
98.4.15九十八年第二学期第三回学科事務会議通過
98.6.10九十八年第二学期第四回学科事務会議通過
99.1.13九十九年第一学期第三回学科事務会議通過
105.5.25一百零五年第二学期第三回学科事務会議通過
105.6.22一百零五年第二学期第三回学科事務会議通過
105.9.14一百零五年第一学期第五回学科事務会議通過
106.6.21一百零六年第二学期第三回学科事務会議通過
107.1.10一百零七年第一学期第四回学科事務会議通過
107.3.21一百零七年第二学期第三回学科事務会議通過
107.10.3一百零七年第一学期第一回担当教授業務委員会通過
108.6.26一百零八年年第二学期第三回学科事務会議通過
110.1.18一百零九年第一学期第四回学科事務会議通過
110.6.23一百零九年第二学期第四回学科事務会議通過
111.9.7一百一十一年第一学期第一回学科事務会議通過
112.9.6一百一十二年第二学期第一回学科事務会議通過